

質問者：中谷 博幸議員

## 問・プロサッカークラブの夏季キャンプの誘致を



プロサッカーリーグ（いわゆるＪリーグ）が、これまで3月に開幕されていた時期が2026年からは8月に移行し「秋春制」となることに伴い、各クラブチームのトレーニングキャンプの時期が6月から7月に変わることになります。これまで、開幕前のトレーニングキャンプは、1月から2月に九州地方や沖縄地方で行われてきましたが、キャンプの時期が6月から7月となることで冷涼な地域である北海道や東北地方が注目されています。

このことから、道内の自治体では、既に網走市、苫小牧市、東川町や白老町がキャンプ地として決定されており、他自治体においてもキャンプ地の誘致に向けた検討が進められています。これまで、九州地方や沖縄地方で行われてきたキャンプ地では地元への経済効果をもたらしてきました。このようなことから本村においてもキャンプ地を誘致することで四季を通じた通年型の観光が充実でき、地元への経済効果を図る有効な施策となるのではないのでしょうか。今年3月にはサッカー日本代表の森保監督も来村され、村に誘致に向けた検討をお願いされたと聞いております。サッカー場関連施設の整備費などの課題もあり本村が単独で誘致をするのは難しい状況にあるのではないかと考えます。しかし、羊蹄山麓地域の自治体においても本村と同様に通年型の観光は共通の課題であると思いますので、他自治体と協力し、クラブチームのキャンプを誘致することはできないのでしょうか。

答弁者：佐藤 ひさ子村長



最初にこれまでの経過について、ご説明をさせていただきます。プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）が来年からシーズン移行が行われることになっており、8月第1週頃に開幕し、翌年の5月最終週頃に閉幕となります。そのため、開幕前の6月、7月は、各チームとも合宿期間となり気候が涼しい北海道がその候補地として期待されております。

合宿地としてチームを受け入れるためには、具体的には、105 m × 68 m（F I F A 推奨）の広さの天然芝のサッカーコートが最低1面必要となります。その造成費としては、本村のふるさと公園のキャンプ場とニレの原っぱを使ってサッカーコートを造成する場合、約4億円と言われております。国の助成金も見込めるとのことですが、様々な財政措置を模索中であり本村の実質負担分がどれくらいになるのかについては、現時点ではっきり申し上げることはできません。コート造成の費用負担に加えて公園機能を維持するために別途費用がかかる場合があること、公園の利活用として現在検討をしている公園構想との整合性、その他合宿を誘致することによる影響等についての調査・検討を進めている段階であります。そこで、まず「キャンプ地を誘致することで地元への経済効果を図る有効な施策となるのではないか」とのことですがチームやサポーターが来村することによる経済効果だけではなく、子どもたちの興味関心の高まりなど様々な効果が考えられます。

経済効果としては、コートの使用料も考えられますが、そのほとんどが滞在費で宿泊施設や食材の供給など本村が得る経済効果はどれくらいになるのかは不明です。また、サポーターがキャンプ見学のために訪れることに伴う賑わいの創出も期待できますが、オーバーツーリズム対策なども新たな課題になることも考えられます。

誘致を前提にしたサッカーコートの造成後は現在のサッカーブームもあり一定の利用は見込めるかもしれませんが、10年後、20年後にどうなっているのかの不安もあります。また、サッカー文化を根付かせる努力も必要ですが一定の投資をして、その費用を回収できるか不確定な面もあり、設備投資の目的、つまり使用者が限定された施設となりますことから、どの程度の使用が見込まれるのか住民に喜びや感動を与えられるのか等、全くの素人が手を付けてよい事業なのかも含めて不安要素が多くあるところです。

しかし、これらの不安が払しょくされるならば、同公園の維持管理だけに年間900万円超の費用の一部が削減されることもメリットでありますし賑わいの面からも効果に期待もするところです。

次に「単独で誘致するのは難しい状況にあるので他自治体と協力し、キャンプを誘致することはできないか」とのことですが、現在、誘致を検討している北海道の自治体は、40団体程あると聞いており、近隣町村では喜茂別町も要請を受けていることから、受け入れる場合にあっては喜茂別町等と連携しての対応となることが考えられますが、その点についても流動的で、私としては喜茂別町に先行して実施していただいて、その様子を見ながら対応を考えてもよいと考えているところです。

しかし、チームには練習試合をする相手チームも必要とのことで、コートは2面、少し離れた場所に求められています。工事業業者とのこれまでの協議経過としては、本年3月末にサッカー日本代表監督の森保一氏が来村した折に最初のご提案をいただいて、その後、5月中旬には関係職員と共に2回目の説明を受けました。それから11月初旬にあらためて説明を受けましたが、なかなか具体的な検討に入れずに時間が経過しております。

あらためて民間企業を交えて事業実施の可能性の検討をする機会を設けたいと考えておりますので羊蹄山麓の自治体等とのキャンプ誘致につきましては本村が取り組むことが大前提でありそれにまだ至っておりませんことから、サッカーコートの造成が有効と判断しましたら考えたいと思います。現時点で、Jリーグのシーズン移行初年度（令和8年）からの受け入れは現実的ではなく、来年度整備を前提とする場合にあっては、本年12月末までにスポーツ振興助成事業等の申請をする必要がありますが、これまで議員各位にもご説明をさせていただきましたが、提供できる情報が不足していることや事業関係者との協議を継続して進めておりませんことから、皆さまのご理解を得ていない状況であり、その他の関係者の理解を得るにも一定の時間がかかることから、期限が迫っているからと言って性急に今回の申請はできないと判断しております。

誘致を実現するためには、少なくない投資が必要となりますことから、費用対効果など将来を見据えた慎重で、前向きな検討が必要と考えております。

